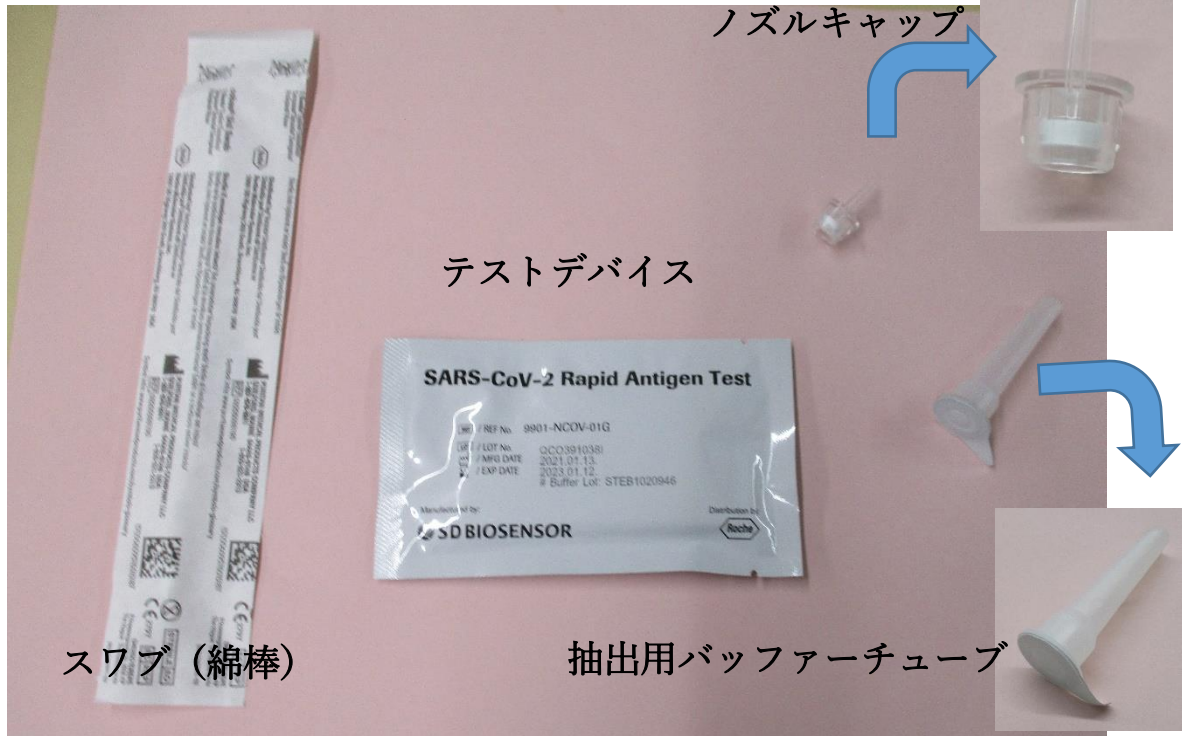
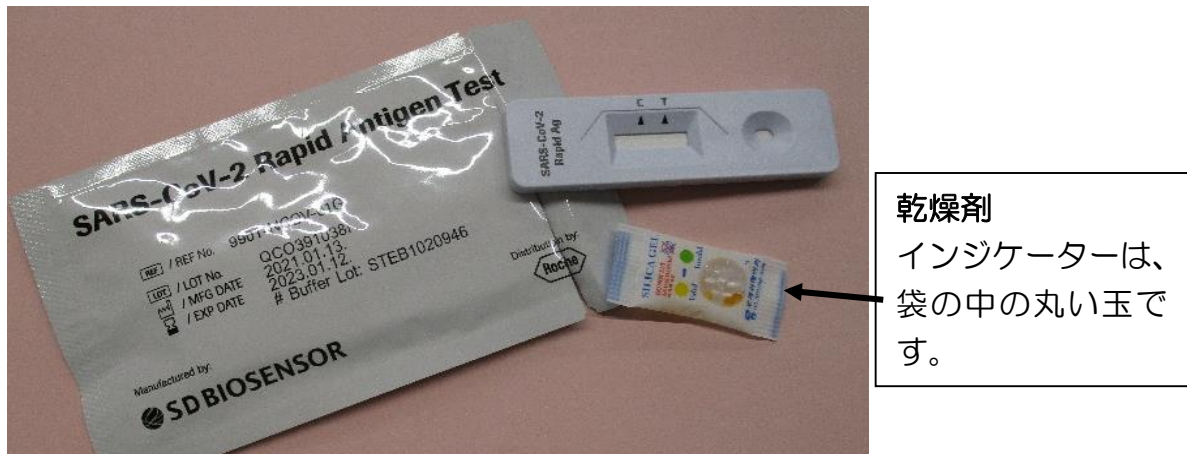


## 抗原検査 検体採取方法

抗原検査キット \*次の4点が入っているか確認してください。



### 検査準備



- テストデバイスを開封し、破損がないか確認する。
- 乾燥剤のインジケーターが黄色であるか確認する。
- 感染予防のため、手袋をはめる。使い捨ての簡易手袋があれば使用をお勧めします。



## 検査手順

- 1 スワブ（綿棒）を袋から取り出します。

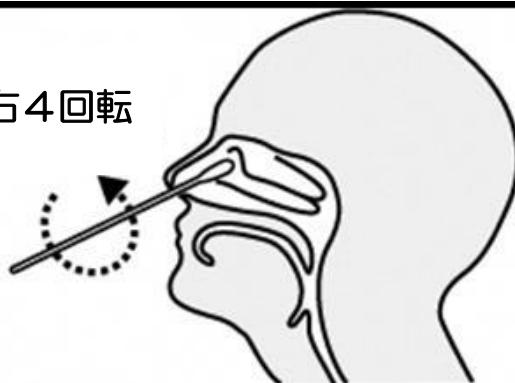


- 2 スワブ（綿棒）を鼻の穴から2cm程度、粘膜部分をぬぐうようにゆっくり挿入します。

鼻腔壁にスワブ（綿棒）を約4回（15秒間）回転させ、粘着表皮を採取します。スワブ（綿棒）の先端がほかの部位に触れないように注意深く引きだします。

同じスワブで、反対の鼻も同様の操作を繰り返します。

左右4回転



綿棒は奥まで入れないでください！  
外から見て、綿棒の綿の部分が隠れる程度の挿入で大丈夫です。

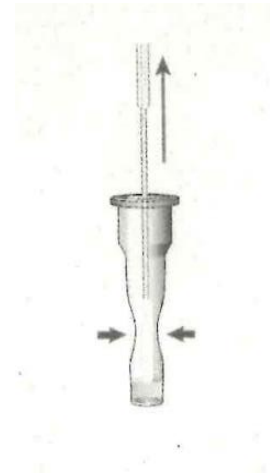


- 3 抽出用バッファのチューブの蓋を開け、スワブ（綿棒）を抽出用バッファのチューブに浸します。

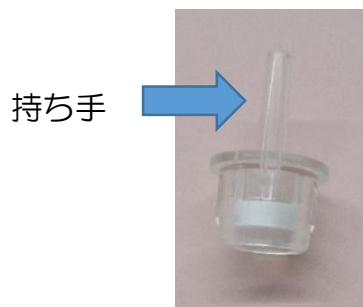
- 4 バッファチューブの外側からスワブの頭部をつまみ、試料を絞り出すように、スワブを10回以上左右に回転させ、上下に動かしかきまぜます。



- 5 チューブの側面からスワブの頭部をつまみ、試料を絞り出すようにスワブを引き抜き、スワブから試料を抽出します。



- 6 バッファータubeのノズルキャップをしっかりと閉めます。



- 7 テストデバイスの丸い穴に抽出した試料3滴を滴下します。

8 15分～30分の間測定結果を判定します。

<注意！>

陰性の判定はコントロールラインが早めに出現した場合であっても、必ず15分以降に行ってください。

また、30分以上経過した後の判定は正確な測定結果が得られない可能性があります。

## 9 判定

①判定窓の上部にコントロールライン（C）が認められた場合は、測定が正しく行われたことを示します。コントロールライン（C）が薄い場合でも、認められる場合は測定が適切に行われたと見なすことができます。コントロールライン（C）が認められない場合、測定は無効です。

②測定結果が陽性の場合、判定窓の下部にテストライン（T）が出現します。テストライン（T）が非常に薄いか均一でない場合も、測定結果は陽性と判定してください。

正しく測定ができていればCにラインが出る。



Tにラインが出れば陽性

